

アムスルだより

No.51 2001年 9月10日

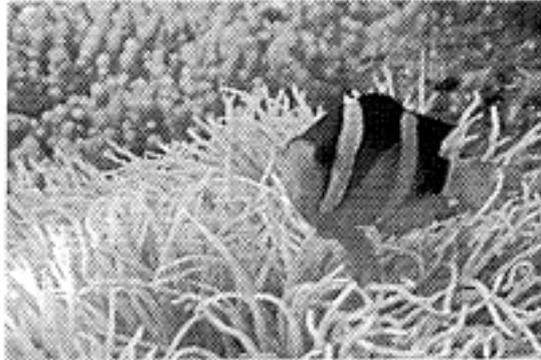
Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



海の中のステキな生きた家

-クマノミのすむイソギンチャク-

とうとう夏休みも終わってしまいました。今年の夏もたくさんの観光客が訪れて、慶良間の海を楽しんでいたようです。きっと色とりどりの魚たちが泳ぐこの海にびっくりしたことでしょう。そうした魚の一つにクマノミがいますが、今回は、そのクマノミの家についてお話ししたいと思います。

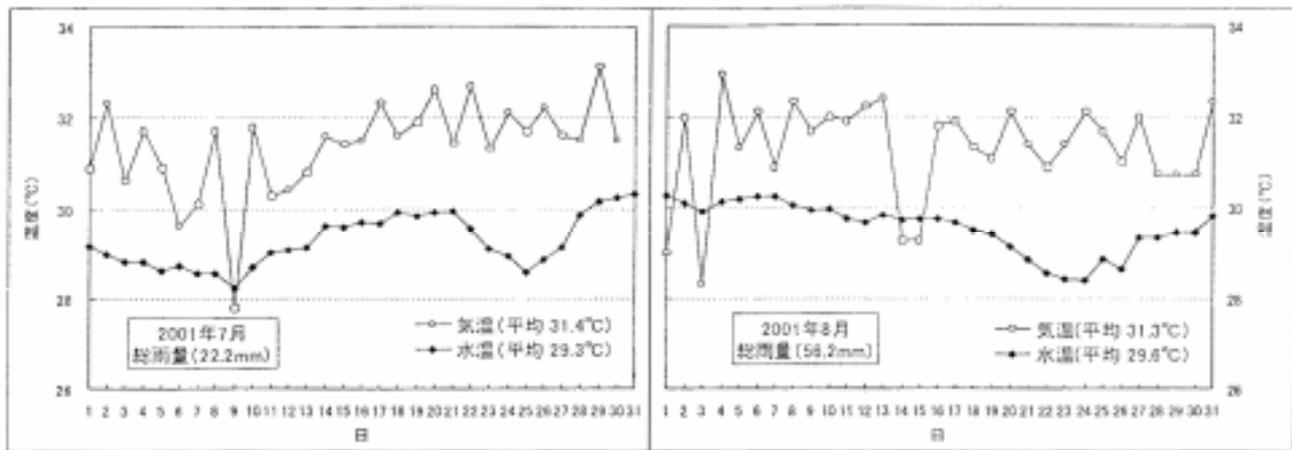
クマノミの生活で有名なのは、イソギンチャクといっしょに暮らしていることでしょう。イソギンチャクの触手しよくしゆの間にもぐり込んでる様子は、なんとも気持ちよさそうです。このクマノミとイソギンチャクが共生関係にあることはよく知られています。イソギンチャクの触手しほうの中には、「刺胞」という毒針が含まれているので、クマノミがその中に逃げ込めば、毒針を嫌がる敵から身を守ることができるのです。

こんな安全なかくれ家ですから、ほかの生き物もそれを利用しない手はありません。

実はクマノミ以外にもいろいろな生き物がイソギンチャクといっしょに暮らしています。例えば、ハナビラクマノミのいるシライトイソギンチャクには、黒い体に白い斑点のミツボシクロズメもすんでいます。この魚は、ずっといっしょにいるわけではありませんが、子供のうちは、よくイソギンチャクの中でくらしています。また、触手が短くてじゅうたんのようハタゴイソギンチャクにはカクレクマノミが暮らしていますが、よく見るとその短い触手にうもれるように、カニのような動物が動いています。甲らに赤い斑点がたくさんあり、ハサミ以外の足が6本(3対)しかありません。これはアカホシカニダマシといって、カニにそっくりですが、本当はヤドカリの仲間です。次に、ちょっと目をそらすと、イソギンチャクのすぐ下の海底に、体長1~2cmくらいで、尻尾をピンと上にはね上げたかっこうをした、茶色い体に白い斑紋のよく目立つエビが何尾もすんでいます。イソギンチャクモエビです。このエビは、イソギンチャクの触手の上にいることはあまりありませんが、かならずイソギンチャクのそばにすんでいます。

そうそう、サンゴと同じように褐虫藻かっちゆうそうもイソギンチャクの体の中にたくさんすんでいて、イソギンチャクに守られながら、光合成を行い、作り出した栄養分をイソギン

阿嘉新港での定点観測



チャクにわたしています。このため、褐虫藻のいない白化したイソギンチャクは、弱って死んでしまうこともあるようです。

このようにイソギンチャクといっしょに見られる生き物は、イソギンチャクに身を守られて暮らしています。では反対に、イソギンチャクにとって、クマノミなどの動物たちと暮らすことはどんな得があるのでしょうか。褐虫藻はイソギンチャクに栄養を与える働きをしますが、その他の動物については、残念ながらまだ研究中でよく分かっていません。ここでは、説を一つだけ紹介しておきましょう。それは、クマノミやほかの動物がもぐり込み、泳いだり動き回ったりすることによって、イソギンチャクの上にたまったゴミが取り除かれ、同時に、自然の流れにまかせるよりもずっと速く、新鮮な海水がイソギンチャクの触手の間を流れるようになる、という説です。実際に、イソギンチャクが白化したとき、クマノミのいるイソギンチャクの方が、いないものに比べて、白化から早く立ち直ったという話がありますが、これはその例かもしれません。このようにイソギンチャクという1つの生き物を見てみても、いくつもの生き物が、うまく関わり合いながら生活しているのです。

阿嘉島の海より

-サンゴの白化と異常潮位-

今年の夏は晴れの天気が続きましたが、海の中もとても暑い夏でした。阿嘉新港での水温は7月下旬頃には29度をこえはじめ、それとともにサンゴの白化が阿嘉島周辺で観察されはじめました。この水温が高くなったのは、晴れの日が続いたこと、台風が7月から8月の中旬にかけて来なかったこと、沖縄本島の東から水温の少し高い塊(暖水渦)が近づいてきたことなどが重なったためと考えられます。しかし、その後台風が8月に一度、9月上旬から先週まで16号が接近して、海水をかき混ぜたせいでしょうか、水温が少し下がっているのです。これからサンゴが回復へ向かってくれることを願うばかりです。

また、この暖水渦の形響で海面の高さ(潮位)も高くなり、7月と8月の大潮の満潮時には、阿嘉島でも港の岸壁から水があふれるくらいまで海面が高くなりました。今後、地球温暖化が進むと海面が上昇すると言われていますが、今回の異常潮位は私たちの住んでいる島が将来どのような影響を受けるのか教えてくれたようです。